

# 平成30年度 第1回札幌市児童会館運営協議会会議記録

日時：平成30年11月5日（月）15時～16時30分

場所：札幌市生涯学習センター 2階 中研修室1

出席：（委員）小野寺委員、加藤委員、鈴木委員、佐藤委員、有塚委員 5名出席

※欠席 松山委員

（事務局）五十嵐こども育成担当部長、下川原こども育成担当部長、

齊藤児童会館担当課長、齊藤児童会館担当課長

笹川児童会館担当課長、大場児童会館担当課長

板村係長、大水係長

傍聴：札幌市子ども未来局2名（齊藤係長 竹中事務職員）

## 1 開 会

五十嵐こども育成部長挨拶

## 2 議 事

児童会館の取り組みおよび利用の様子について映像上映

大場児童会館担当課長の進行により、説明および報告事項の審議が進められた。

### （1）札幌市児童会館運営協議会について

設置要綱について説明を実施した。

委員からの質問・意見はなし

### （2）第3期指定管理業務報告について

事務局より、第3期指定管理業務報告について説明し、了承された。

委員からの質問・意見はなし

### （3）第4期指定管理業務計画について

事務局より、第4期基本方針について説明し、了承された。

委員からの質問・意見はなし

### （4）平成30年度上半期事業報告について

事務局より、事業に関するスライドショー上映と共に事業報告を実施した。

委員からの質問・意見はなし

### 3 意見交換

#### ・札幌市より報告

児童会館等の今後の整備予定について説明

児童クラブ過密化解消対策について説明

#### ・各委員よりご意見（要約）

- ・色々な子どもたちがお互いをどのように受け入れていくのかがとても重要であると考えます。学校と児童会館の大きな違いは、縦割りが認められているという部分で、児童会館は大変望ましい環境だと思っている。役割分担が形成される過程で様々な関係が構築され、それらの関わりを通して、子どもたちは学んでいくことになる。「1かゼロか」ではなく、「どれも正解だ」もしくは「この場合はどれが正解かみんなで考える」などの多様性が非常に重要だと思っている。
- ・子どもたちの可能性を広げていくためには、多様な人々と最善の状態で作って維持し、意思決定の際には独りよがりにならず、周囲のことを考えられることが重要である。また、持続可能な社会を作っていくために必要な資質や能力を各教科や教科外科目で身につけさせることも学校教育の立場として重要であると考えている。児童会館で設定している目標と学校教育が目標にしていることを全て一致させる必要はないが、相互にどんなことを重要視しているのかという情報交流やイメージ共有が大切だと考えている。
- ・地域の中で若い親と子どもたちが声を掛け合える関係にあるのは、良いことだと感じている。中高校生は自分自身の未来を考えると難しい子どももいるため、様々な体験をしてもらうことが大切だと考え職業体験のような事業を行っている。児童会館へボランティアとして足を運ぶようになったからこそ、様々な状況が見えるが、世代的には、今の子どもたちが何に興味を持ち、どのようにみているのかが解りにくくなっているため、児童会館の存在はありがたい。可能な限り関わっていきたいと考えている。
- ・現状の児童会館は「どういう子どもにとって来やすい場所になっているのか」と考えたときに、各館微妙に異なる部分と共通している部分があるように思う。児童期だけで考えても、ある程度の枠を与えられた中で主体性を発揮することは、小学4年生前後を境にしてそれ以前とそれ以降（5、6年生や中学生）の子どもたちにとっては異なるのではないかと。
- ・集団活動をしたり、体験を重視することが、誰にとっても「来やすい児童会館」とは限らない。例えば発達障がいのある子どもにとっては、「遊ばなくてもよい権利」が保障されている方が重要になるかもしれない。

- ・児童会館のスケールメリットを活かすとすれば、地域に根ざすことも重要だが、根ざすが故に使いにくくなってしまう部分もあると思う。例えば多くの子どもたちが下校する時間帯とそれ以前の時間帯、自分の学区だと利用しにくい子どもが、隣の学区だと利用可能になるかもしれないなど。逆の見方をし、可能であれば、それを越えていけるメリットを使っていくことが重要だと考える。
- ・児童会館は「居場所」の確保という意味で重要な施設であるが、「居場所」はこちらがつくるものではなく、子どもたちが探すものである。可能な限り、子どもの側に立って「どんな環境なら居心地がよいのか」について子どもたちから聞くという発想が重要だと思う。
- ・「ゲーム脳」の問題が取りざたされている現在において、子どもたちに、可能な限りアナログで遊べるものを用意していくことは長いスパン考えると絶対に重要だと感じている。また、合法的にスキンシップをとることができる遊びが大事になってきていると思う。今後も自信を持って活動していただきたいと思っている。
- ・子育てにおいて、孤立化防止のため札幌市でも子育てサロンなど含め様々広げている状況だが、今後に向けても大切な事業だと感じている。児童会館においては異年齢の子どもたちが共に活動することで、遊びを通して発達し、人間関係の感覚が自然と養われていくため、その機能を今後も是非発揮して欲しい。

#### 4 閉 会

下川原こども育成部長挨拶

以上